

平成 30 年 1 月 9 日

January 9, 2018

大学院学生各位

To All Graduate Students

平成 29 年度

基盤医学特論 開講通知

Information on Special Lecture Tokuron 2017.4-2018.3

題目：ALS 発症病態の解明に向けた新たなマウスモデルの開発

Title: Development of a novel mouse model for elucidation of ALS pathogenesis

講師：河原 行郎（大阪大学大学院医学系研究科 神経遺伝子学教室 教授）

Teaching staff: Yukio Kawahara, M.D., Ph.D.

(Department of RNA Biology and Neuroscience, Graduate School of Medicine, Osaka University)

日時：平成 30 年 3 月 1 日（木）17 時 30 分より

Time and Date: from 17:30, Thursday, March 1st, 2018

場所：環境医学研究所 南館 2F 大会議室 ←場所が変更になりました。

Room: The Research Institute of Environmental Medicine, South Building, Main conference room

使用言語：日本語

Language: Japanese

神経変性疾患の病態解明と治療法確立には、できるだけ疾患病態を再現するモデル動物の存在が必要不可欠である。運動ニューロンが選択的に変性・脱落し、全身の筋力低下を主症状とする筋萎縮性側索硬化症 (ALS)においても、これまでにトランスジェニックマウスを中心に多数のモデルが作製されてきた。しかし、プロモーターの選択、挿入位置、コピー数の違いによって症状は多様である。例えば、ALS の一部の患者では、TDP-43 をコードする TARDBP 遺伝子に点変異が同定されているが、変異の有無に関わらず TDP-43 を過剰発現するマウスは運動障害を呈する。また、生後すぐに症状を呈するケースも多く、病態機構の解明や治験評価を困難にする障壁となっている。我々は最近、マウス Tardbp 遺伝子に ALS 型点変異を挿入した新たなノックインマウスを作製した。本セミナーでは、本マウスの症状、病理像などを紹介し、今後の発症機構解明や治療法確立へのアプローチについて議論を深めたい。

* 関係講座・部門等の連絡担当者：環境医学研究所 病態神経科学分野 山中宏二 (3867)

Contact: Neuroscience and Pathobiology, Research institute of Environmental Medicine. (Phone; Ext,3867)

[注意] Notice 事前の申込みは不要です。No registration required.

医学部学務課大学院係
Student Affairs Division, School of Medicine